

修士論文(要旨)

2018年7月

日本語学習者の視点から見た役割語についての意識調査  
—マンガ『名探偵コナン』を用いて—

指導 宮副ウォン裕子 教授

言語教育研究科  
日本語教育専攻

**215J3011**

楊 依

Master's Thesis(Abstract)

July 2018

Japanese Language Learners' Perceptions of Role Words:  
A Survey Making Use of the Cartoon "Detective Conan"

YANGYI

215J3011

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Yuko Miyazoe-Wong

## 目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究背景	1
1.2	研究動機	2
1.3	研究目的	3
第2章	先行研究	4
2.1	マンガの言語に関する研究	4
2.1.1	マンガ言語研究の経緯	4
2.1.2	マンガの言語の構造と特徴	4
2.1.3	マンガの言語と日本語教育	9
2.2	役割語に関する研究	10
2.2.1	役割語の基本概念	10
2.2.2	役割語の属性面と言語面	11
2.2.3	役割語の特徴と効果	14
2.2.4	役割語の日本語教育へのアプローチ	17
第3章	マンガ『名探偵コナン』	19
3.1	分析作品の概要	19
3.2	ストーリー	19
3.3	重要なキャラクター	20
3.4	研究データの選択基準	22
第4章	調査概要	23
4.1	調査目的	23
4.2	調査方法	23
4.3	協力者の基本情報	23
4.4	アンケート調査の質問内容とその構成	23
4.4.1	基本情報についての質問	23
4.4.2	アンケート調査の会話資料	24
4.4.3	役割語に関するアンケート	26
4.5	分析方法	26
第5章	調査分析	27
5.1	パート A についての分析	27
5.2	パート C についての分析	29
第6章	まとめと今後の課題	41
	注	42
	参考文献・URL	I
	出典	III
	添付資料	- 1 -

## 添付資料目次

添付資料 I	: 調査用紙	- 4 -
添付資料 II	: 協力者は会話例を選んだ役割語の整理	- 16 -

## 要 旨

日本のポップカルチャー、特に「アニメ・マンガ」の海外での爆発的な人気ぶりは近年新聞やWebサイトを賑わす話題の一つとなっている。海外で絶大な人気を博している日本のマンガは、“manga”として世界で通用する言葉となり各地で幅広い読者層を獲得している。海外における日本のポップカルチャーの人気は顕著であり、アニメ・マンガに対する関心から日本語学習を始める学習者が増加している。熊野（2008）は日本のアニメ・マンガの人気の高さは、日本語学習のきっかけや動機づけの役割を果たしており、アニメ・マンガのキャラクターやジャンル特有の生き生きとした表現に魅力を感じ、その解説を求める学習者も多いと報告している。

このような状況の中、日本語教育の中でマンガ・アニメを利用する方法も増加している。熊野（2011）は日本語教育において、マンガ・アニメを活用することにより、オノマトペ、敬語、文型、文字、文化事情などを教えられる、また、生き生きしたバラエティー豊かな表現に触れることで、日本語の面白さや広がりを感じ、学習の動機づけにも繋がるだろうと述べている。

しかし、マンガやアニメなどのヴァーチャルな世界を描いた作品の中では、多くのキャラクター特有の言葉遣いが存在する。金水（2008）は特定のキャラクターと結びついた言語表現に関し「役割語」という概念を提唱したが、これ以後役割語をめぐる研究が増えた。金水（2011）は日本語教育と役割語の関係について論じている。日本語母語話者の知識の中には、話し手のキャラクター、発話状況、話し相手に依存した言語変種が多数あり、その中に役割語も含まれる。その一方、日本語教育の立場で考えれば、母語が日本語ではない日本語学習者が役割語と現実社会を分別することには困難があると考えられる。役割語は言語的なステレオタイプであるので、特定の社会的グループに対する偏見や差別を助長するという負の役割を負うこともある。

役割語をめぐるのはこのような難しさがあるにもかかわらず、非日本語母語話者の学習者の視点から役割語とは何なのだろうかなど、学習者は役割語の効果や特徴などがどのような理解程度を持っているのかについては未だ十分な考察がされていない。単に日本語母語話者の研究社の立場だけから役割語を研究するのではなく、非日本語母語話者である学習者の視点から役割語を研究することが求められている。

現在、役割語については研究者や教育者の立場で様々な研究を進められ、精緻化されている。だが、日本語学習者、特に母語が日本語ではない学習者たちによる役割語の認識程度や理解の能力等の研究はまだ行われていない。日本語教育者の立場でのこのような研究が重要であると考えられる。

先行研究をまとめ、以下3つの課題を明らかにすることが本研究の目的である。

- (1) 学習者は役割語についてどのような認識を持っているのか。
- (2) 学習者の視点から見た役割語は日本語学習にどのような効果と影響があるのか。
- (3) 学習者の視点から見た役割語と研究者の研究結果とではどのような相違点があるのか。

因（2005）は日本語教育リソースとして利用できる優れた作品を選ぶための条件として次の3点をあげている。

- 1) 深みのある主題を持つ。
- 2) 表現技法と作品としての完成度が求められる。
- 3) 現代的、且つ現実的である作品が望ましい。

その要点に基づき、本研究では『名探偵コナン』というマンガを分析データとして選択する。

本研究では、『名探偵コナン』というマンガ作品の発話を例として、役割語の「要素」「属性」「特徴」「効果」等の面に注目し、マンガの中から代表性がある台詞を選択し、非日本語母語話者の学習者にアンケート調査を実施する。調査では日本語学習者が、役割語についてどんな認識を持っているか、どんな学習方法を用いているかなどを調査・分析した。

本研究のアンケート調査は2段階に分かれており、第1段階では研究資料を使わず、協力者の基本情報と以前の読書した時見た役割語についての基本調査を行う。第2段階では『名探偵コナン』の各キャラクターが使用する役割語を比較し、協力者に役割語の属性面（年齢、性別など）と言語面（人称代名詞、文末表現など）についてのアンケート調査を行う。協力者が持つ、役割語についての認識や意識を分析・考察した。これより、学習者の役割語についての認識程度、習得能力、困難点などが明らかとなった。学習者の視点から役割語を分析することにより、研究者は分析・考察の全体像を得ることができ、日本語教育者は学習者にとっての有効な学習支援方法が提案できるのではないだろうか。

## 参考文献

- 伊藤剛 (2005) 「テツカ・イズ・デッド ひらかれたマンガ表現論へ」 NTT 出版
- ウンサーシュッツ・ジャンガーラ (2012) 「マンガにおける文字情報の分類とマンガの読み方：手書きの台詞・考え事・コメントに注目して」『マンガ研究』18, 日本マンガ学会, 8-24
- ウンサーシュッツ・ジャンガーラ (2015) 「マンガにおけるジャンルを見つめなおす—その位置付けと特徴を考察—」『立正大学心理研究年報』6, 21-23
- 甲斐睦朗 (1989) 「マンガのことば—問題提起—」日本語学 VOL. 8, 33-38
- 川嶋恵子・熊野七絵 (2011) 「アニメ・マンガの日本語授業への活用」2011 年度日本語教育実践研究フォーラム報告
- 金水敏 (1989) 「代名詞と人称」北原保雄編『講座 日本語と日本語教育 4』明治書院
- 金水敏 (2000) 「役割語探求の提案」佐藤喜代治編『国語史の新視点』明治書院, 311-351
- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
- 金水敏 (2007) 「「役割語」研究と社会言語学の接点」社会言語科学会：発表論文 pp. 359-361
- 金水敏 (2008) 「役割語と日本語史」金水敏・他 (編)『日本語史のインタフェース』岩波書店, 205-235
- 金水敏 (2011) 「役割語と日本語教育」『日本語教育』150, 34-41
- 金水敏 (2013) 「役割語研究の 10 年—日本大学国文学会講談記録—」『語文』147, 112-94
- 金水敏 (編) (2014) 『〈役割語〉小辞典』研究社
- 金水敏 (2015) 「マンガと役割語研究」第 7 回国際学術会議
- 熊野七絵 (2008) 「「アニメ・マンガ」調査研究-地域事情と日本語教材-」, 国際交流基金日本語教育紀要(4), 55-69
- 熊野七絵 (2010) 「日本語学習者とアニメ・マンガ～聞き取り調査結果から見える現状とニーズ～」広島大学留学生センター紀要 (20), 89 - 103
- 熊野七絵 (2011) 「アニメ・マンガの日本語：キャラクターの特徴をめぐって」第十二回フランス日本語教育シンポジウム, 117-125
- 小松満帆 (2013) 「研究ノート：役割語と「属性表現」の検証—アニメ『魔法少女まどか☆マギカ』を用いて」日本語教育研究創刊号, 87-102
- 定延利之 (2006) 「ことばと発話キャラクタ」『文学』7-6, pp. 117-129
- 定延利之 (2007) 「発見の「た」と発話キャラクタ」『言語』36-12, 大修館書店, 40-47
- 定延利之・張麗娜 (2007) 「日本語・中国語におけるキャラ語尾の観察」彭飛 (編)『中日対照言語学研究論文集：中国語からみた日本語の特徴, 日本語からみた中国語の特徴』和泉書院, 99-119
- 竹中一郎 (2006) 『手塚治虫＝ストーリーマンガの起源』講談社
- 因京子 (2005) 「マンガで学ぶ日本語—日本語教育でのストーリー・マンガ利用の可能性—」日下翠 (編)『マンガ研究への扉』, 梓書院, 133-153
- 因京子 (2007) 「ストーリーマンガで学ぶ日本語と日本社会」九州大学留学生センター・比較社会文化学府, 35 - 45
- 飛田良文 (2006) 『日本語学研究事典』明示書院
- 三輪正 (2005) 『一人称二人称と会話』人文書院

- 山口治彦 (2007) 「役割語の個別性と普遍性—日英の対照を通して—」 金水敏編『役割語研究の地平』くろしお出版, 27-42
- 山口治彦 (2011) 「役割語のエコロジー——他人キャラとコンテキストの関係——」 金水敏編『役割語研究の展開』くろしお出版, 27-47
- 李夢蝶 (2015) 「役割語としての自称詞の使い分けの考察—ストーリーマンガを資料として—」 桜美林大学大学院言語教育研究科日本語教育専攻 修士論文 (2015 年度)

### 参考 URL

国際交流基金：「2012 年度，日本語教育機関に対する調査結果」

[https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey\\_2012/2012\\_s\\_exc\\_erpt\\_j.pdf](https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2012/2012_s_exc_erpt_j.pdf) (最終検索日 2016 年 7 月 2 日)

## 出典

- 青山剛昌 (2014) 『名探偵コナン』 単行本, 第 83 卷, 小学館  
青山剛昌 (2014) 『名探偵コナン』 単行本, 第 84 卷, 小学館  
青山剛昌 (2014) 『名探偵コナン』 単行本, 第 85 卷, 小学館  
青山剛昌 (2015) 『名探偵コナン』 単行本, 第 86 卷, 小学館  
青山剛昌 (2015) 『名探偵コナン』 単行本, 第 87 卷, 小学館  
青山剛昌 (2015) 『名探偵コナン』 単行本, 第 88 卷, 小学館  
青山剛昌 (2016) 『名探偵コナン』 単行本, 第 89 卷, 小学館  
青山剛昌 (2016) 『名探偵コナン』 単行本, 第 90 卷, 小学館  
青山剛昌 (2016) 『名探偵コナン』 単行本, 第 91 卷, 小学館  
青山剛昌 (2017) 『名探偵コナン』 単行本, 第 92 卷, 小学館